

タイトル「**2013年度シラバス**」、開講所属「**教育学部全体-教育学部 教職（課程共通）**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月2
開講期間			
必修選択	必, 選択	単位数	2.0
時間割コード	20131095175001	科目番号	10951750
授業科目名	●教職の理解		
編集担当教員	小原 達朗		
授業担当教員名(科目責任者)	小原 達朗		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	小原 達朗, 笹山 龍太郎, 石部 邦昭		
科目分類	学部モジュール科目、教職、教職（第2欄）		
対象年次	1年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-21		
対象学生（クラス等）	学部1年生		
担当教員Eメールアドレス	labo@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部252室		
担当教員TEL	819-2294		
担当教員オフィスアワー	金曜日17：00～17：40		
授業のねらい	今日の急激な社会変化の中で、学校教育をめぐる様々な教育課題に適切に対処しつつ充実した教育指導を実現するためには教員の資質向上が必須である。本授業においては、そのような教職の意義についての理解を深め、学校における教師の役割について考察し、その役割を効果的に遂行するために必要な資質について考える。		
授業方法（学習指導法）	本授業は、講義、グループワーク、質疑応答形式で行い、随時小レポートにより学びの過程を確認する。		
授業到達目標	教職についての全体像を表明できること。 現代の児童生徒の実態について表明できること。 現代の教育課題について表明し、自ら探究できること。		
授業内容	1(4/ 8) イントロダクション（授業の趣旨・概要の説明） 2(4/15) 現代の子どもの実態 3(4/22) 専門職としての教師 4(5/13) 組織としての学校 5(5/20) 公務員としての教師 6(5/27) シリーズ学校経営の実際（附属中学校の取組） 7(6/ 3) シリーズ学校経営の実際（附属特別支援学校の取組） 8(6/10) シリーズ学校経営の実際（附属幼稚園の取組） 9(6/17) シリーズ学校経営の実際（附属小学校の取組） 10(6/24) シリーズ学校経営の実際（教育行政の取組） 11(7/ 1) シリーズ教育活動を考える（家庭教育の視点から） 12(7/ 8) シリーズ教育活動を考える（子ども理解の視点から） 13(7/22) シリーズ新しい教育課題（特別支援教育の考え方進め方） 14(7/23) シリーズ新しい教育課題（体験活動の考え方進め方） 15(7/29) シリーズ新しい教育課題（キャリア教育の考え方進め方）		

キーワード	教師、専門職、学校経営、教育課題
教科書・教材・参考書	テキストを作成し配布する。
成績評価の方法・基準等	教師論、学校経営、教育活動、教育課題の各分野についてレポートを提出。各25点×4分野で100点。 60点以上が合格。
受講要件（履修条件）	特になし
本科目の位置づけ	教育学部生としての基礎科目、教員採用の入門科目
学習・教育目標	教育学部に入学して間もなく開始される科目であり、児童生徒の立場から教師としての立場に立って教育を考える視点や視野を持つことが目標である。
備考（URL）	
備考（準備学習等）	



タイトル「**2013年度シラバス**」、開講所属「**教育学部全体-教育学部 教職（課程共通）**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火1																								
開講期間																											
必修選択	必, 選択	単位数	2.0																								
時間割コード	20131095195801	科目番号	10951958																								
授業科目名	●学校教育心理[a班]																										
編集担当教員	原田 純治																										
授業担当教員名(科目責任者)	原田 純治																										
授業担当教員名(オムニバス科目等)	原田 純治																										
科目分類	学部モジュール科目、教職、教職（第3欄）																										
対象年次	1年	講義形態	講義科目																								
教室	[教]31講義室																										
対象学生（クラス等）	学校教育教員養成課程1年次生(a班)																										
担当教員Eメールアドレス	harada@nagasaki-u.ac.jp																										
担当教員研究室	教育学部本館2階（222室）																										
担当教員TEL	095-819-2396																										
担当教員オフィスアワー	メールにて問い合わせること。																										
授業のねらい	将来教職に就くものにとって、各教科の指導内容・方法に精通することに加え、教育指導をどのように行うかにあたり児童生徒の心身の発達、学習のメカニズムやその動機づけ、健全なパーソナリティの育成等について基礎・基本となる教育心理学的な知識や基本的な教育的態度の習得は必要とされる。																										
授業方法（学習指導法）	講義形式。																										
授業到達目標	教育的諸事象を心理学の視点から捉え考察することができる。 教育心理学の知見を効果的な指導に役立てることができる。																										
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教育心理学の役割・性質</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>発達 ①乳幼児期, 児童期</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>発達 ②青年期</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学習と指導 ①学習理論と指導法</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学習と指導 ②学習の動機づけ</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>人格と適応 ①人格の理論</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>人格と適応 ②パーソナリティと適応</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>人格と適応 ③人格の測定</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>教育評価</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>教師の心理</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学級集団の心理</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	教育心理学の役割・性質	2	発達 ①乳幼児期, 児童期	3	発達 ②青年期	4	学習と指導 ①学習理論と指導法	5	学習と指導 ②学習の動機づけ	6	人格と適応 ①人格の理論	7	人格と適応 ②パーソナリティと適応	8	人格と適応 ③人格の測定	9	教育評価	10	教師の心理	11	学級集団の心理
回	内容																										
1	教育心理学の役割・性質																										
2	発達 ①乳幼児期, 児童期																										
3	発達 ②青年期																										
4	学習と指導 ①学習理論と指導法																										
5	学習と指導 ②学習の動機づけ																										
6	人格と適応 ①人格の理論																										
7	人格と適応 ②パーソナリティと適応																										
8	人格と適応 ③人格の測定																										
9	教育評価																										
10	教師の心理																										
11	学級集団の心理																										

	12	学級集団の指導
	13	教育臨床
	14	発達障害
	15	学校教育心理学の研究法
	16	試験
キーワード	発達、学習、人格と適応、教育評価	
教科書・教材・参考書	特に用いない。	
成績評価の方法・基準等	1. 授業への貢献度(10%) 質問、講義中の質問への回答など 2. 定期試験(90%)	
受講要件 (履修条件)		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考 (URL)		
備考 (準備学習等)		



タイトル「**2013年度シラバス**」、開講所属「**教育学部全体-教育学部 教職（課程共通）**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火1																				
開講期間																							
必修選択	必, 選択	単位数	2.0																				
時間割コード	20131095195803	科目番号	10951958																				
授業科目名	●学校教育心理[b班]																						
編集担当教員	谷口 弘一																						
授業担当教員名(科目責任者)	谷口 弘一																						
授業担当教員名(オムニバス科目等)	谷口 弘一																						
科目分類	学部モジュール科目、教職、教職（第3欄）																						
対象年次	1年	講義形態	講義科目																				
教室	[教]11講義室																						
対象学生（クラス等）																							
担当教員Eメールアドレス	taniguti@nagasaki-u.ac.jp																						
担当教員研究室	教育学部215番研究室																						
担当教員TEL																							
担当教員オフィスアワー	毎週火曜日10:30～11:30																						
授業のねらい	学校場面における様々な教育的事象を説明する上で有効となる心理学の諸理論について理解すること。																						
授業方法（学習指導法）	講義形式（視聴覚教材、心理尺度等の実習教材、プリントを適宜使用）																						
授業到達目標	多様な教育実践の諸問題を心理学の視点から捉え考察することができる。心理学の知見を効果的な指導に役立てることができる。																						
授業内容	<p>授業内容（概要） 教育的諸問題を解決する上で有効となる心理学の諸理論や技法について解説する。本講義では、とりわけ、発達、学習、子どもの理解・指導など、教育実践と密接に関連したトピックを取り上げる。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4月9日 教育心理学の目的・対象・領域</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4月16日 教育心理学の研究法・学習法</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4月23日 発達と教育</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4月30日 認知発達論(1)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5月7日 認知発達論(2)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>5月14日 性格形成</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>5月21日 社会性と社会的スキルの発達</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>5月28日 学習の動機づけ(1)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>6月4日 学習の動機づけ(2)</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	4月9日 教育心理学の目的・対象・領域	2	4月16日 教育心理学の研究法・学習法	3	4月23日 発達と教育	4	4月30日 認知発達論(1)	5	5月7日 認知発達論(2)	6	5月14日 性格形成	7	5月21日 社会性と社会的スキルの発達	8	5月28日 学習の動機づけ(1)	9	6月4日 学習の動機づけ(2)
回	内容																						
1	4月9日 教育心理学の目的・対象・領域																						
2	4月16日 教育心理学の研究法・学習法																						
3	4月23日 発達と教育																						
4	4月30日 認知発達論(1)																						
5	5月7日 認知発達論(2)																						
6	5月14日 性格形成																						
7	5月21日 社会性と社会的スキルの発達																						
8	5月28日 学習の動機づけ(1)																						
9	6月4日 学習の動機づけ(2)																						

	10	6月11日 学習の認知プロセス(1)
	11	6月18日 学習の認知プロセス(2)
	12	6月25日 学級の間関係と教師のリーダーシップ
	13	7月2日 心理検査と心理療法
	14	7月9日 教育評価の考え方と実際(1)
	15	7月16日 教育評価の考え方と実際(2)
	16	7月30日 定期試験
キーワード		
教科書・教材・参考書	精選コンパクト教育心理学—教師になる人のために— 北大路書房	
成績評価の方法・基準等	期末試験100% 授業で募集する実験や調査などへの参加による学習、もしくはそれに替わる課題なども評価に加味する。	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		



タイトル「**2013年度シラバス**」、開講所属「**教育学部全体-教育学部 教職（課程共通）**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	必, 選択	単位数	1.0
時間割コード	20131095195401	科目番号	10951954
授業科目名	●障害児教育論		
編集担当教員	平田 勝政		
授業担当教員名(科目責任者)	平田 勝政		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	平田 勝政, 綿巻 徹, 鈴木 保巳, 吉田 ゆり, 穴山 司		
科目分類	学部モジュール科目、教職、教職（第3欄）		
対象年次	1年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生（クラス等）	全コース1年		
担当教員Eメールアドレス	hirata@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部2F（218）		
担当教員TEL	095-819-2389(内線2389)		
担当教員オフィスアワー	授業終了後		
授業のねらい	障害児教育論は、障害のある子どもの特別支援教育に関する専門知識（その基礎・基本）をわかりやすく講義し、あわせて附属特別支援学校での介護等体験実習に必要な事前学習をおこなうことをねらいとする。		
授業方法（学習指導法）	附属特別支援学校の校長・教頭と学部の教員の講義を中心におこなう。		
授業到達目標	附属特別支援学校での介護等体験実習に必要な実践的な知識の理解・修得、さらに特別支援教育に関する教育学・心理学・生理病理学に関する理論的基礎知識を理解・修得すること。		
授業内容	回	内容	
	1	附属特別支援学校教員の講義 1	
	2	附属特別支援学校教員の講義 2	
	3	附属特別支援学校教員の講義 3	
	4	附属特別支援学校教員の講義 4	
	5	インクルージョンと特別支援教育（教育学から）	
	6	障害のある子どもの理解と支援（心理学から）	
	7	障害のある子どもの理解と支援（生理・病理学から）	
	8	試験	
	9		
	10		
	11		
	12		

	13
	14
	15
	16
キーワード	介護等体験実習、障害のある子どもの理解と支援
教科書・教材・参考書	茂木俊彦：障害児教育を考える（岩波新書）
成績評価の方法・基準等	出席状況、毎回提出の小レポート、最後の試験を総合して評価する。
受講要件（履修条件）	特になし
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考（URL）	
備考（準備学習等）	



タイトル「**2013年度シラバス**」、開講所属「**教育学部全体-教育学部 教職（課程共通）**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	必, 選択	単位数	1.0
時間割コード	20131095179801	科目番号	10951798
授業科目名	●乳幼児教育論		
編集担当教員	井口 均		
授業担当教員名(科目責任者)	井口 均		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	井口 均, 原田 和幸		
科目分類	学部モジュール科目、教職、教職（第3欄）		
対象年次	1年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生（クラス等）	1年（教育学部全コース生）		
担当教員Eメールアドレス	hitoshi@		
担当教員研究室	225（井口）、附属幼稚園（元田）		
担当教員TEL	095-819-2388（井口）、095-819-2288（附属幼稚園、元田）		
担当教員オフィスアワー	随時（但し、事前連絡必要）		
授業のねらい	幼稚園期を含む乳幼児期の子どもの姿及び乳幼児教育の課題と方法について基本的な理解を深める。		
授業方法（学習指導法）	講義		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼稚園とは何かについて説明できる</li> <li>2. 幼児期の遊びの特徴について指摘できる</li> <li>3. 乳幼児教育・保育の法的根拠を説明できる</li> <li>4. 乳幼児期の育ちの可能性を説明できる</li> <li>5. 幼児の学習能力の高さと問題点を指摘できる</li> <li>5. 幼保一体化の問題点について指摘できる</li> </ol>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼稚園の基本</li> <li>2. 幼稚園の生活・保育形態について</li> <li>3. 幼児の心のそだち</li> <li>4. 幼児の遊びと学びの姿</li> <li>5. 乳幼児教育・保育の法的根拠と基本課題</li> <li>6. 乳幼児の「かしこさ」とは何かを考える</li> <li>7. 進行する幼保一体化の動向と問題点を考える</li> <li>8. まとめ</li> </ol>		
キーワード	乳幼児、幼稚園、発達、遊び、学校、一体化、かしこさ、早期教育		
教科書・教材・参考書	配布資料、必要に応じて紹介		
成績評価の方法・基準等	小レポート（出欠を兼ねる）50点、受講態度10点、最終レポート40点、総合評価60%以上で合格。		
受講要件（履修条件）			
本科目の位置づけ	小学校教育以降の学びの基礎力形成期としての乳幼児期の理解を深める。		

学習・教育目標	小学校以降の教育にとって乳幼児期が何故重要なのかを理解し説明できる。
備考 (URL)	
備考 (準備学習等)	



-----  
Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2013年度シラバス**」、開講所属「**教育学部全体-教育学部 教科又は教職、教職関連科目**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 3
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20131095101801	科目番号	10951018
授業科目名	●ボランティア論		
編集担当教員	小原 達朗		
授業担当教員名(科目責任者)	小原 達朗		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	小原 達朗		
科目分類	学部モジュール科目、学部共通科目、教科又は教職		
対象年次	1年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-21		
対象学生 (クラス等)	学部1年生		
担当教員Eメールアドレス	labo@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	252研究室		
担当教員TEL	095-819-2294		
担当教員オフィスアワー	水曜日 17:00～		
授業のねらい	行政の枠組みを越えた社会活動の新たな力としてボランティアが様々な形で展開してきた。本科目は、このような背景のもとで社会的側面から学校教育や社会人の課題としてボランティアの歴史、形態、方法、実態、精神及び実践論について基礎知識を深める。		
授業方法 (学習指導法)	主担当者以外に、外部の社会福祉団体等からの講師を迎えての授業である。講義を主とするが、障害者等に対するコミュニケーションの取り方や子どもへの対応の仕方等の演習・実技を含めた授業を行う。		
授業到達目標	本科目は、ボランティア活動の実践を必ずしも勧めるものではない。「ボランティアとは何か」と授業を終えた段階で自分なりの考え方を持つことができることが、到達目標である。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>10月04日 オリエンテーション</li> <li>10月11日 ボランティアの意味</li> <li>10月18日 ボランティアの実際</li> <li>10月25日 福祉とボランティア</li> <li>11月01日 福祉教育について</li> <li>11月08日 社会福祉施設でのボランティア</li> <li>11月15日 介護等体験とボランティア</li> <li>11月29日 ボランティアのあゆみ</li> <li>12月06日 聴覚障害者とボランティア</li> <li>12月13日 視覚障害者とボランティア</li> <li>12月20日 ボランティアとNPO</li> <li>01月10日 学校教育とボランティア</li> <li>01月23日 災害とボランティア</li> <li>01月24日 ボランティアのこれから</li> <li>01月31日 質疑応答とまとめ</li> </ol>		
キーワード	ボランティアの意味、歴史、実態、是非		
教科書・教材・参考書	毎回の授業で内容に沿ったレジメや資料を配布する。		

成績評価の方法・基準等	ボランティアについての理論、実態、必要性や是非について正しく理解すること。毎回の小レポート(10点×10回分)を合計し、60点以上を合格とする。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



---

Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2013年度シラバス**」、開講所属「**教育学部全体-教育学部 専門ゼミナール**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20131095533801	科目番号	10955338
授業科目名	●専門ゼミナール[子ども理解]		
編集担当教員	内野 成美		
授業担当教員名(科目責任者)	内野 成美		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	内野 成美		
科目分類	学部モジュール科目、教職関連科目		
対象年次	1年	講義形態	演習科目
教室	[教]21講義室		
対象学生(クラス等)	1年		
担当教員Eメールアドレス	soudan@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育実践総合センター(シンフォニー) 1階		
担当教員TEL	095-819-2297		
担当教員オフィスアワー	適宜 まずはメールにて連絡を		
授業のねらい	子ども理解とは何か。 子どもがどのように理解され、またどのように理解するべきかを教育学・心理学の様々なアプローチ法を知り、知識を深める。		
授業方法(学習指導法)	10人の教員が、それぞれに課題を提起する。その中で、学生同士および学生と教員間での討論等により、課題を深化させる。		
授業到達目標	①課題について考察することができる ②それぞれが探究し答えを提起することができる ③Selflearningを実践することができる		
授業内容	2班に分けて授業を実施しますので、講義の順番は班によって異なります。  ①教育と教育学に関わる問題意識の明確化 ②問題行動等の状況 ③日本の教育の特徴、言えますか？ ④教師の学級指導メッセージに関する研究1 ⑤教師の学級指導メッセージに関する研究2 ⑥テストは何を評価するのか？ ⑦テストは何を評価するのか？ ⑧対人関係と精神的健康1 ⑨対人関係と精神的健康2 ⑩体験を基盤とした学校内外での子どもの育ち1 ⑪体験を基盤とした学校内外での子どもの育ち2 ⑫質問紙法の実習1 ⑬質問紙法の実習2 ⑭学級集団の中で適応に困難を感じている子どもたち1 ⑮学級集団の中で適応に困難を感じている子どもたち2		

キーワード	子ども理解 探究
教科書・教材・参考書	適宜提案する
成績評価の方法・基準等	①参加状況及び態度 30% ②問題提起 30% ③レポート 40%
受講要件（履修条件）	子ども理解実践専攻の1年次を対象としたものです。
本科目の位置づけ	必修
学習・教育目標	各テーマに関し、深く探求しようとする姿勢を身につける。
備考（URL）	
備考（準備学習等）	適宜提案する



タイトル「**2013年度シラバス**」、開講所属「**教育学部全体-教育学部 専門ゼミナール**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20131095533802	科目番号	10955338
授業科目名	●専門ゼミナール[ICT活用]		
編集担当教員	全 炳徳		
授業担当教員名(科目責任者)	全 炳徳		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	全 炳徳		
科目分類	学部モジュール科目、教職関連科目		
対象年次	1年	講義形態	演習科目
教室	[教]第2PC室		
対象学生(クラス等)	学校教育教員養成課程		
担当教員Eメールアドレス	bdjun@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育本館、309号室		
担当教員TEL	095-819-2324		
担当教員オフィスアワー	月曜日、10:00 -- 12:00		
授業のねらい	本講義は初等教育にかかわる先生たちが、ゼミナールの前にゼミの紹介をするもので、複数の先生たちによるゼミの紹介を行う。それぞれのゼミで行っている内容の紹介が本講義のねらいである。		
授業方法(学習指導法)	複数の先生たちによる授業であるため、各回ごと、それぞれの授業方法がとられる。実践的な講義であったり、座学であったり、野外での実施も想定される。		
授業到達目標	三年時から取り組むであろう、希望のゼミの内容が理解できることが到達目標である。		
授業内容	第1回～第15回：担当の先生によるゼミの紹介		
キーワード			
教科書・教材・参考書	担当の教員による提示		
成績評価の方法・基準等	<p>合格水準</p> <p>次の3点をすべて満たした場合、合格とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席2/3以上</li> <li>・授業中の小課題とレポート全提出</li> <li>・最終課題評価60点以上</li> </ul> <p>評価方法</p> <p>2/3出席し、かつ、授業中の小課題とレポートをすべて提出したもののみが、最終課題に取り組むことができる。判定は課題評価の60点以上を合格とする。</p>		
受講要件(履修条件)	ゼミナールIを三年時に受ける予定の学生		
本科目の位置づけ			
学習・教育目標			

備考 (URL)	
備考 (準備学習等)	



---

Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2013年度シラバス**」、開講所属「**教育学部全体-教育学部 専門ゼミナール**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20131095533803	科目番号	10955338
授業科目名	●専門ゼミナール[教科授業]		
編集担当教員	鈴木 慶子		
授業担当教員名(科目責任者)	赤崎 眞弓		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	赤崎 眞弓		
科目分類	学部モジュール科目、教職関連科目		
対象年次	1年	講義形態	演習科目
教室	[教]22講義室		
対象学生(クラス等)	小学校教育コース(教科授業実践専攻)		
担当教員Eメールアドレス	akasaki@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部5階 513号室		
担当教員TEL	095-819-2368		
担当教員オフィスアワー	月曜、3校時		
授業のねらい	教員を知り、学生を知るとともに教育学部での学びの導入。		
授業方法(学習指導法)	講義に加えて、適宜、演習形式を取り入れる。		
授業到達目標	教育学部での学びについて理解することができる。		
授業内容	第1回～第15回 教科授業実践専攻担当教員によるオムニバス形式の授業(毎回、担当教員の専門分野を扱う)		
キーワード			
教科書・教材・参考書	必要に応じて、適宜指示する。		
成績評価の方法・基準等	評価方法 ・授業への取り組みの姿勢 ・毎回の授業の課題(レポート等を含む)  合格基準 。到達目標が達成できているかを上記の方法で総合的に評価する。60点以上が合格。出席は2/3以上。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ			
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			



---

Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2013年度シラバス**」、開講所属「**教育学部全体-教育学部 専門ゼミナール**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20131095533804	科目番号	10955338
授業科目名	●専門ゼミナール[多文化理解]		
編集担当教員	小原 達朗		
授業担当教員名(科目責任者)	楠山 研		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	楠山 研		
科目分類	学部モジュール科目、教職関連科目		
対象年次	1年	講義形態	演習科目
教室	[教]31講義室		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	kusuyama@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部 2 1 9 室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	小学校教員に必要なプラスアルファの力を付ける。教育の「国際化」や「国際理解教育」といった新しい時代の要請に応えることのできる教員への第一歩を踏み出す。		
授業方法 (学習指導法)	講義とグループ学習を組み合わせる授業づくり等の集団活動をおこなう。学生の希望や状況に応じて方法や内容が変わることがある。		
授業到達目標	授業づくりの基礎が身についている。多文化理解の基礎を理解している。外国の子どもへの授業など、多文化状況にある教室で授業をするということについて考えられる。		
授業内容	回	内容	
	1	オリエンテーション	
	2	基礎講義 (1)	
	3	基礎講義 (2)	
	4	基礎講義 (3)	
	5	授業案作成	
	6	授業案発表	
	7	授業づくり開始	
	8	授業づくりに関連する講義 (1)	
	9	授業づくり中間報告	
	10	授業づくりに関連する講義 (2)	
11	授業づくり最終		

	12	授業発表会（1）
	13	授業発表会（2）
	14	授業発表会（3）
	15	講評およびまとめ
	16	
キーワード	学校の多文化化, 集団活動	
教科書・教材・参考書	授業中に適宜紹介する。	
成績評価の方法・基準等	授業への取り組み、グループ発表での貢献度などから総合的に判断する。	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		



タイトル「**2013年度シラバス**」、開講所属「**教育学部全体-教育学部 専門ゼミナール**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20131095533805	科目番号	10955338
授業科目名	●専門ゼミナール[芸術感性(音)]		
編集担当教員	福井 昭史		
授業担当教員名(科目責任者)	福井 昭史		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	福井 昭史		
科目分類	学部モジュール科目、教職関連科目		
対象年次	1年	講義形態	演習科目
教室	[教]音1番		
対象学生(クラス等)	音楽専攻		
担当教員Eメールアドレス	a-fukui@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	音楽棟3階		
担当教員TEL	095-819-2342		
担当教員オフィスアワー	在室時は常時相談可		
授業のねらい	音楽学習に必要な基本的な語彙を身に付けることが本講義の目的である。		
授業方法(学習指導法)	本ゼミナールでは、音楽形式、楽曲の様式などに関する基礎的な知識を身に付けることであり、受講生が各々の事項について調べ学習を行い、その発表を行う。		
授業到達目標	示された用語を80%以上正確に答えられること。		
授業内容	回	内容	
	1	音楽の形式に関する課題(リート形式、器楽形式に属する各種形式) 1	
	2	音楽の形式に関する課題(リート形式、器楽形式に属する各種形式) 2	
	3	西洋の舞曲(中世・ルネッサンスから近代に到る西洋音楽の舞曲、エスタンピー、ブランル、メヌエット、ブーレ、サラバントなど) 1	
	4	西洋の舞曲(中世・ルネッサンスから近代に到る西洋音楽の舞曲、エスタンピー、ブランル、メヌエット、ブーレ、サラバントなど) 2	
	5	西洋の舞曲(中世・ルネッサンスから近代に到る西洋音楽の舞曲、エスタンピー、ブランル、メヌエット、ブーレ、サラバントなど) 3	
	6	舞曲以外の器楽曲の名称(即興曲、間奏曲など) 1	
	7	舞曲以外の器楽曲の名称(即興曲、間奏曲など) 2	
	8	舞曲以外の器楽曲の名称(即興曲、間奏曲など) 3	
	9	舞曲以外の器楽曲の名称(即興曲、間奏曲など) 4	
	10	声楽曲の名称(賛美歌、リートなど) 1	
11	声楽曲の名称(賛美歌、リートなど) 2		

	12	声楽曲の名称（賛美歌、リートなど）3
	13	ポピュラー音楽や現代の音楽1
	14	ポピュラー音楽や現代の音楽2
	15	ポピュラー音楽や現代の音楽3
	16	試験
キーワード	音楽	
教科書・教材・参考書	課題のテキストを配布する。	
成績評価の方法・基準等	合格水準に到達するまで、音楽用語とその内容等に関する試験を繰り返し実施する。（100%）	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ	音楽に関する用語を理解することで音楽研究の基礎的能力を育成する。	
学習・教育目標	音楽に関する用語を理解する。	
備考（URL）		
備考（準備学習等）	3コマ程度の授業を実施した後で、テストで理解の程度を確認する。理解が不十分な場合は、学習を繰り返し、再テストを行う。	





タイトル「**2013年度シラバス**」、開講所属「**教育学部全体-教育学部 専門ゼミナール**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20131095533806	科目番号	10955338
授業科目名	●専門ゼミナール[芸術感性(美)]		
編集担当教員	中川 泰		
授業担当教員名(科目責任者)	中川 泰		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	中川 泰		
科目分類	学部モジュール科目、教職関連科目		
対象年次	1年	講義形態	演習科目
教室	[教]11講義室		
対象学生(クラス等)	1年		
担当教員Eメールアドレス	nakagawa@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	美術・技術棟213		
担当教員TEL	095-819-2351		
担当教員オフィスアワー	月12:00~12:30		
授業のねらい	これから美術を専攻していく学生のために、美術の枠組みを示し、どのような知識や技能を習得していかなければならないかを提示する		
授業方法(学習指導法)	美術科の教員がオムニバスで各領域に関するゼミナールを行う		
授業到達目標	美術の学び方について説明できる		
授業内容	回	内容	
	1	美術科教育領域について(1)	
	2	美術科教育領域について(2)	
	3	美術科教育領域について(3)	
	4	デザイン領域について(1)	
	5	デザイン領域について(2)	
	6	デザイン領域について(3)	
	7	工芸領域について(1)	
	8	工芸領域について(2)	
	9	工芸領域について(3)	
	10	美術理論・美術史領域について(1)	
	11	美術理論・美術史領域について(2)	
	12	美術理論・美術史領域について(3)	
	13	彫刻領域について(1)	
14	彫刻領域について(2)		

	15	彫刻領域について(3)
	16	
キーワード	美術	
教科書・教材・参考書	「美術資料・表現と鑑賞」(秀学社)、その他は必要に応じて適宜指示する	
成績評価の方法・基準等	各担当者による試験またはレポートまたは作品50%、各担当者の授業での参加状況50%・各担当者の授業で60点以上(100点満点)かつ出席3分の2以上	
受講要件(履修条件)	幼稚園教育コース芸術的感性開発専攻(美術)に所属する学生	
本科目の位置づけ	入門科目	
学習・教育目標	積極的に参加し、着実な成果を上げる	
備考(URL)		
備考(準備学習等)	欠かさず出席すること	



タイトル「**2013年度シラバス**」、開講所属「**教育学部全体-教育学部 専門ゼミナール**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20131095533807	科目番号	10955338
授業科目名	●専門ゼミナール[こども保育]		
編集担当教員	井口 均		
授業担当教員名(科目責任者)	井口 均		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	井口 均,小西 祐馬,森野 美央		
科目分類	学部モジュール科目、教職関連科目		
対象年次	1年	講義形態	演習科目
教室	[教]32講義室		
対象学生 (クラス等)	1年		
担当教員Eメールアドレス	hitoshi@konishi@		
担当教員研究室	225 (井口)、224 (小西)		
担当教員TEL	095-819-2388 (井口)、095-819-2328 (小西)		
担当教員オフィスアワー	随時		
授業のねらい	1.身体・運動遊びによる相互交流 2.保育ボランティアによる保育現場の体験		
授業方法 (学習指導法)	・体験的遊びと職場体験を通じた交流		
授業到達目標	1.身体・運動遊びの面白さを実感する 2.幼稚園・保育園の独自の保育の仕組みを知る 3.1日の生活の流れを知る 4.幼稚園・保育園の保育者の仕事内容を知る 5.自分の体験で感じたこと、考えたことを発表できる		
授業内容	1.オリエンテーション 2~6.運動遊び 7.幼稚園・保育園の制度的基本知識と日課事例 8~14.保育ボランティア 15・16.体験発表会		
キーワード	遊び、幼稚園、保育園		
教科書・教材・参考書			
成績評価の方法・基準等	遊び演習への参加30点、小レポート20点、ボランティア参加30点、発表20点、総合評価が60%以上で合格。		
受講要件 (履修条件)	こども保育専攻生であること。		
本科目の位置づけ	乳幼児教育・保育の導入		
学習・教育目標			
備考 (URL)			

備考（準備学習等）

運動できる服装、上履きの準備。



-----  
Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2013年度シラバス**」、開講所属「**教育学部全体-教育学部 専門ゼミナール**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20131095533808	科目番号	10955338
授業科目名	●専門ゼミナール[国語]		
編集担当教員	山本 建雄		
授業担当教員名(科目責任者)	山本 建雄		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山本 建雄, 勝俣 隆, 中島 貴奈		
科目分類	学部モジュール科目、教職関連科目		
対象年次	1年	講義形態	演習科目
教室	[教]国語演習室		
対象学生(クラス等)	中学校教育コース国語専攻		
担当教員Eメールアドレス	819-2300(山本) 819-2299(勝俣)		
担当教員研究室	教育学部623(山本) 653(勝俣)		
担当教員TEL	819-2300(山本) 819-2299(勝俣)		
担当教員オフィスアワー	水曜日II(山本)		
授業のねらい	専門的な学習の開始の時期に合わせ、国文学、国語学、漢文学、国語科教育の各分野の授業、研究について、講義と演習を取り混ぜた授業を通じて、概略の理解を得させる。		
授業方法(学習指導法)	講義と演習		
授業到達目標	上記の「授業のねらい」と同じ。		
授業内容	第1回 本授業の趣旨と授業計画 第2回～第6回 古典文学の授業と研究 第7回～10回 漢文学の授業と研究 第11回～第14回 国語科教育の授業と研究 第15回 授業の振り返りとまとめ		
キーワード			
教科書・教材・参考書	教材 授業者が毎時間用意する。 参考書 近代文学、古典文学、漢文学に関すること をテーマとする各出版社の新書。		
成績評価の方法・基準等	各分野の授業内容の理解度と定着度とを、小テスト、レポート等から総合的に評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ			
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「**2013年度シラバス**」、開講所属「**教育学部全体-教育学部 専門ゼミナール**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20131095533809	科目番号	10955338
授業科目名	●専門ゼミナール[数学]		
編集担当教員	梶本 ひろし		
授業担当教員名(科目責任者)	梶本 ひろし		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	梶本 ひろし, 北村 右一		
科目分類	学部モジュール科目、教職関連科目		
対象年次	1年	講義形態	演習科目
教室	[教]23講義室		
対象学生 (クラス等)	中学校数学科1年		
担当教員Eメールアドレス	kajimoto@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部本館 3 1 1		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	随時		
授業のねらい	文献の内容を理解し、的確に説明できる能力を身につけてほしい。3, 4年生で行われるゼミナールへの入門でもある。		
授業方法 (学習指導法)	学生自身の課題発表にたいし、助言をおこなう。 授業到達目標 代数学、幾何学、解析学に関連する各自の課題に関して、文献の内容を的確に説明できる。教員からの質問に対し十分に答えることができる。		
授業到達目標			
授業内容	代数学の基礎的内容、幾何学の基礎的内容、解析学の基礎的内容にあたる文献を講読し口頭発表を行う。 各自が周辺事情を含めた調査を行い、その結果を報告する。毎回の授業ごとに、成果の口頭発表が行われる。		
キーワード	プレゼンテーション		
教科書・教材・参考書	未定 (初回に指示する)		
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の準備をしっかりと行っていること</li> <li>・教材の内容を正確に理解していること</li> <li>・発表時の説明のわかりやすさ</li> <li>・質問に対する答えかたが妥当であること</li> </ul> 以上の観点を総合して判断する。合格点は60点。		
受講要件 (履修条件)			
本科目の位置づけ			
学習・教育目標			
備考 (URL)			

備考（準備学習等）

いかなる質問にたいしても答えられるよう、十分な準備が必要。



-----  
Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2013年度シラバス**」、開講所属「**教育学部全体-教育学部 専門ゼミナール**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20131095533810	科目番号	10955338
授業科目名	●専門ゼミナール[音楽]		
編集担当教員	福井 昭史		
授業担当教員名(科目責任者)	福井 昭史		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	福井 昭史		
科目分類	学部モジュール科目、教職関連科目		
対象年次	1年	講義形態	演習科目
教室	[教]音1番		
対象学生(クラス等)	音楽専攻		
担当教員Eメールアドレス	a-fukui@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	音楽棟3階		
担当教員TEL	095-819-2342		
担当教員オフィスアワー	在室時は常時相談可		
授業のねらい	音楽学習に必要な基本的な語彙を身に付けることが本講義の目的である。		
授業方法(学習指導法)	本ゼミナールでは、音楽形式、楽曲の様式などに関する基礎的な知識を身に付けることであり、受講生が各々の事項について調べ学習を行い、その発表を行う。		
授業到達目標	示された用語を80%以上正確に答えられること。		
授業内容	回	内容	
	1	音楽の形式に関する課題(リート形式、器楽形式に属する各種形式) 1	
	2	音楽の形式に関する課題(リート形式、器楽形式に属する各種形式) 2	
	3	西洋の舞曲(中世・ルネッサンスから近代に到る西洋音楽の舞曲、エスタンピー、ブランル、メヌエット、ブーレ、サラバントなど) 1	
	4	西洋の舞曲(中世・ルネッサンスから近代に到る西洋音楽の舞曲、エスタンピー、ブランル、メヌエット、ブーレ、サラバントなど) 2	
	5	西洋の舞曲(中世・ルネッサンスから近代に到る西洋音楽の舞曲、エスタンピー、ブランル、メヌエット、ブーレ、サラバントなど) 3	
	6	舞曲以外の器楽曲の名称(即興曲、間奏曲など) 1	
	7	舞曲以外の器楽曲の名称(即興曲、間奏曲など) 2	
	8	舞曲以外の器楽曲の名称(即興曲、間奏曲など) 3	
	9	舞曲以外の器楽曲の名称(即興曲、間奏曲など) 4	
	10	声楽曲の名称(賛美歌、リートなど) 1	
11	声楽曲の名称(賛美歌、リートなど) 2		

	12	声楽曲の名称（賛美歌、リートなど）3
	13	ポピュラー音楽や現代の音楽1
	14	ポピュラー音楽や現代の音楽2
	15	ポピュラー音楽や現代の音楽3
	16	試験
キーワード	音楽	
教科書・教材・参考書	課題のテキストを配布する。	
成績評価の方法・基準等	合格水準に到達するまで、音楽用語とその内容等に関する試験を繰り返し実施する。（100%）	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ	音楽に関する用語を理解することで音楽研究の基礎的能力を育成する。	
学習・教育目標	音楽に関する用語を理解する。	
備考（URL）		
備考（準備学習等）	3コマ程度の授業を実施した後で、テストで理解の程度を確認する。理解が不十分な場合は、学習を繰り返し、再テストを行う。	



タイトル「**2013年度シラバス**」、開講所属「**教育学部全体-教育学部 専門ゼミナール**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20131095533811	科目番号	10955338
授業科目名	●専門ゼミナール[美術]		
編集担当教員	佐藤 敬助		
授業担当教員名(科目責任者)	佐藤 敬助		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	佐藤 敬助, 織田 芳人, 中川 泰, 菅野 弘之, 針貝 綾		
科目分類	学部モジュール科目、教職関連科目		
対象年次	1年	講義形態	演習科目
教室	[教]11講義室		
対象学生(クラス等)	中学校教育コース美術専攻1年		
担当教員Eメールアドレス	keisuke@nagasaki-u.ac.jp他		
担当教員研究室	美術技術棟102		
担当教員TEL	095-819-2349		
担当教員オフィスアワー	授業終了後の時間		
授業のねらい	中学校美術教員の必要な知識・技能を習得していくプロセスを概観する		
授業方法(学習指導法)	美術科教員のオムニバス形式による必要な各分野の概観説明と考察		
授業到達目標	美術教師に求められる各分野の知識・技能の概観を理解する。		
授業内容	回	内容	
	1	美術科教育分野について①	
	2	美術科教育分野について②	
	3	美術科教育分野について③	
	4	デザイン分野について①	
	5	デザイン分野について②	
	6	デザイン分野について③	
	7	工芸分野について①	
	8	工芸分野について③	
	9	工芸分野について③	
	10	美術理論美術史分野について①	
	11	美術理論美術史分野について②	
	12	美術理論美術史分野について③	
	13	彫刻分野について①	
	14	彫刻分野について②	

	15	彫刻分野について③
	16	
キーワード	美術 美術教育	
教科書・教材・参考書		
成績評価の方法・基準等	日常の授業での活動状況50%・筆記試験またはレポート50%・60点以上(100点満点)	
受講要件(履修条件)		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)	オムニバス形式の授業携帯のため、欠席しないように注意する事	



タイトル「**2013年度シラバス**」、開講所属「**教育学部全体-教育学部 専門ゼミナール**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20131095533812	科目番号	10955338
授業科目名	●専門ゼミナール[保体]		
編集担当教員	高橋 浩二		
授業担当教員名(科目責任者)	山内 正毅		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山内 正毅, 管原 正志, 西澤 昭, 高橋 浩二		
科目分類	学部モジュール科目、教職関連科目		
対象年次	1年	講義形態	演習科目
教室	[教]演習室1-(3)		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室	本館109研究室(山内)		
担当教員TEL	2357(山内)		
担当教員オフィスアワー	随時(予約による)		
授業のねらい	教員としての実践力を身につけるため、教育や保健体育教科関連の事柄を知り、理解していく上で必要な心構えを学ぶ。子どもや教師について考え、議論できるようになる。		
授業方法(学習指導法)			
授業到達目標	教師としての心構えと教育に対する興味・関心が深まり、理解を得ること。		
授業内容	<p>以下の項目について保健体育教室に関係する教員が担当する。「試験」を除いて順番が前後することもある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 現代社会とスポーツ</li> <li>2) スポーツの歴史と文化</li> <li>3) スポーツライフの設計</li> <li>4) 運動技能の構造と運動の学び方</li> <li>5) 体ほぐしの意義と体力の高め方</li> <li>6) 健康の考え方</li> <li>7) 健康の保持増進と病気の予防</li> <li>8) 精神の健康と応急手当</li> <li>9) 生涯の各段階における健康</li> <li>10) 保健・医療制度と地域の保健及び医療機関の活用</li> <li>11) 環境及び労働と健康</li> <li>12) 環境と食品の保健</li> <li>13) 体育関係の用語の解説</li> <li>14) 保健関係の用語の解説</li> <li>15) 専門職としての教師の役割</li> <li>16) 試験</li> </ol>		
キーワード			
教科書・教材・参考書	「新保健体育(改訂版)」(大修館書店)をテキストにする。 適宜資料も用意する。		

成績評価の方法・基準等	理由の如何を問わず5分の4以上の出席を必要とする。授業中の態度やレポート、成果発表を総合的に評価するが、期末試験における成績を重視する。期末試験では60%以上の得点が求められる。
受講要件（履修条件）	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考（URL）	
備考（準備学習等）	



---

Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2013年度シラバス**」、開講所属「**教育学部全体-教育学部 専門ゼミナール**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20131095533813	科目番号	10955338
授業科目名	●専門ゼミナール[家庭]		
編集担当教員	及川 大地		
授業担当教員名(科目責任者)	及川 大地		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	及川 大地, ガンガ 伸子, 飯島 美夏		
科目分類	学部モジュール科目、教職関連科目		
対象年次	1年	講義形態	演習科目
教室	[教]家庭科演習室		
対象学生(クラス等)	家庭科1年生		
担当教員Eメールアドレス	daichioi@nagasaki-u.ac.jp (及川)		
担当教員研究室	354 (ガンガ)、353 (飯島)、351 (及川)		
担当教員TEL	095-819-2375 (及川)		
担当教員オフィスアワー	事前予約のこと		
授業のねらい	高等学校家庭科に関する内容の復習と、大学での専門教育への発展のために必要な基礎知識を獲得すること。		
授業方法(学習指導法)	オムニバス		
授業到達目標	高校家庭科の内容を完璧に復習する。 海外の家庭科事情を知り、家政学の視座・視点から国際的な視野を広げる。 大学での専門教育に必要な基礎知識を習得する。		
授業内容	回	内容	
	1	オリエンテーション 諸外国の家庭科スタンダードと専門領域の内容① (ガンガ)	
	2	諸外国の家庭科スタンダードと専門領域の内容② (ガンガ)	
	3	諸外国の家庭科スタンダードと専門領域の内容③ (ガンガ)	
	4	諸外国の家庭科スタンダードと専門領域の内容④ (ガンガ)	
	5	諸外国の家庭科スタンダードと専門領域の内容⑤ (ガンガ)	
	6	諸外国の家庭科スタンダードと専門領域の内容⑥ (飯島)	
	7	諸外国の家庭科スタンダードと専門領域の内容⑦ (飯島)	
	8	諸外国の家庭科スタンダードと専門領域の内容⑧ (飯島)	
	9	諸外国の家庭科スタンダードと専門領域の内容⑨ (飯島)	
	10	諸外国の家庭科スタンダードと専門領域の内容⑩ (飯島)	
	11	諸外国の家庭科スタンダードと専門領域の内容⑪ (及川)	
	12	諸外国の家庭科スタンダードと専門領域の内容⑫ (及川)	

	13 諸外国の家庭科スタンダードと専門領域の内容 <sup>⑬</sup> （及川）
	14 諸外国の家庭科スタンダードと専門領域の内容 <sup>⑭</sup> （及川）
	15 諸外国の家庭科スタンダードと専門領域の内容 <sup>⑮</sup> （及川）
	16
キーワード	生活経営学、被服学、食物学
教科書・教材・参考書	<p>高等学校家庭科教科書（高等学校で使用したものでよい。ただし、家庭科総合も持っていることが望ましい。）</p> <p>家庭科のカリキュラムの改善に関する研究 - 諸外国の動向- 国立教育政策研究所</p> <p>National Standards for Family and Consumer Sciences Education</p> <p>Mc Graw Hill "Discovering Life Skills"（アメリカの家庭科教科書）</p>
成績評価の方法・基準等	<p>&lt;必須要件&gt;</p> <p>各担当者の授業を2/3以上出席していること。</p> <p>各担当者が実施するすべての課題（小テスト）を提出していること。</p> <p>高校家庭科の復習ノートを授業終了後に提示した期日までに提出していること。</p> <p>評価方法</p> <p>① 出席状況：前提</p> <p>② 課題の達成状況：80%</p> <p>③ ノート（課題）：20%</p>
受講要件（履修条件）	中学校教育コース家庭専攻に所属していること。
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考（URL）	
備考（準備学習等）	資料はWebClassから引き抜き、事前に予習しておくこと。詳細は各章担当の教員が説明する。



タイトル「**2013年度シラバス**」、開講所属「**教育学部全体-教育学部 専門ゼミナール**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20131095533814	科目番号	10955338
授業科目名	●専門ゼミナール[社会]		
編集担当教員	堀井 健一		
授業担当教員名(科目責任者)	堀井 健一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	堀井 健一, 飯塚 知敬, 永田 聖二, 福留 真紀, 大平 晃久, 池谷 和子		
科目分類	学部モジュール科目、教職関連科目		
対象年次	1年	講義形態	演習科目
教室	[教]33講義室		
対象学生 (クラス等)	1年中学社会		
担当教員Eメールアドレス	pericles_kh@yahoo.co.jp		
担当教員研究室	教育学部本館 6階 6 1 1 番研究室		
担当教員TEL	pericles_kh@yahoo.co.jp		
担当教員オフィスアワー	水曜日午後		
授業のねらい	歴史学, 地理学, 経済学, 法律学, 倫理学など, 社会科に関連する基礎的な知識を学び, さまざまな角度から社会を考察する方法を会得する。 社会科系の本の内容を適切に要約することができる。		
授業方法 (学習指導法)	歴史学, 地理学, 経済学, 法律学, 倫理学など, 社会科に関連する基礎的な知識を習得する。 社会科系の本を読み要約をして発表する。		
授業到達目標	社会科系の本の要約ができる。		
授業内容	1 オリエンテーション (堀井) 2 本の読み方/外国史の方法 (堀井) 3 外国史の基礎知識 (堀井) 4 法律学の方法 (池谷) 5 法律学の基礎知識 (池谷) 6 地理学の方法 (大平) 7 地理学の基礎知識 (大平) 8 経済学の方法 (永田) 9 経済学の基礎知識 (永田) 10 日本史の方法 (福留) 11 日本史の基礎知識 (福留) 12 哲学・倫理学の方法 (飯塚) 13 哲学・倫理学の基礎知識 (飯塚) 14 本の要約発表会 1 (堀井) 15 本の要約発表会 2 (堀井)		
キーワード			
教科書・教材・参考書	杉田敦『政治的思考』(岩波新書), 平野克己『経済大陸アフリカ』(中公新書)(あくまで予定である)		

成績評価の方法・基準等	各分野の試験またはレポート70点 本の要約発表とレポート30点
受講要件（履修条件）	2 / 3 以上の出席を求める。
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考（URL）	
備考（準備学習等）	



-----  
Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2013年度シラバス**」、開講所属「**教育学部全体-教育学部 専門ゼミナール**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20131095533815	科目番号	10955338
授業科目名	●専門ゼミナール[理科]		
編集担当教員	大庭 伸也		
授業担当教員名(科目責任者)	大庭 伸也		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	大庭 伸也, 長島 雅裕, 古賀 雅夫, 星野 由雅, 山路 裕昭, 福山 隆雄, 赤羽 良一		
科目分類	学部モジュール科目、教職関連科目		
対象年次	1年	講義形態	演習科目
教室	[教]第1PC室		
対象学生(クラス等)	学校教育教員養成課程		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室	各教員研究室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業空き時間		
授業のねらい	物理, 化学, 生物, 地学, 理科教育の各分野について, 興味・関心を持ち, 基礎的・基本的な知識と理解を獲得するとともに, さまざまな分野の話題について積極的に学ぶ能力と態度を形成する。		
授業方法(学習指導法)			
授業到達目標	物理, 化学, 生物, 地学, 理科教育の各分野について, 興味・関心を持つことができる。		
授業内容	<p>各分野の内容は以下のとおりである。</p> <p>物理1: 物理への招待: 大きなものから小さなものまでを、どのようにまとめ考えていくのか。そして、未来を予測していくのか。法則性の探求。          物理2: ビデオ「宇宙から地球を見ると」「スペースシャトル内での実験」の視聴と討論。保存則に関する簡単な実験。          物理3: 現代先端技術に関するビデオの視聴。科学技術の物理学の関係。磁石の不思議。          化学1: 日本人のノーベル化学賞受賞研究          化学2: 化学実験の基礎知識          化学3: 化学実験の演示と科学的思考          生物1: 生物の特徴と生物界の分類          生物2: 植物の生活と生きる知恵          生物3: 植物が動いた方がよい時: 植物の繁殖          地学1: 身の回りの地学現象と地質学          地学2: 惑星形成過程に関する最新の理論と観測結果          地学3: ビッグバン宇宙の歴史          理科教育1: どのような理科授業を望むか。理想の理科授業。          理科教育2: 理科授業ビデオの視聴と討論。          理科教育3: 最近の話題(理科学力の低下等)。</p>		

キーワード	
教科書・教材・参考書	化学:「化学ってそういうこと!」(化学同人) 理科教育:理科教育関係の雑誌(理科の教育, 理科教室, その他)  化学:「イラストで見る化学実験の基礎知識」飯田 隆他編著(丸善) 理科教育:小中学校の理科教科書
成績評価の方法・基準等	各分野について興味・関心を持ち, 基礎的・基本的な知識と理解を獲得し, 積極的に学ぶ能力と態度を形成したかを評価し, 6割以上達成できている場合に合格とする。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	質問等により積極的に授業に参加してもらいたい。



タイトル「**2013年度シラバス**」、開講所属「**教育学部全体-教育学部 専門ゼミナール**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20131095533816	科目番号	10955338
授業科目名	●専門ゼミナール[技術]		
編集担当教員	藤木 卓		
授業担当教員名(科目責任者)	藤木 卓		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	藤木 卓, 藤本 登, 武藤 浩二, 木村 彰孝		
科目分類	学部モジュール科目、教職関連科目		
対象年次	1年	講義形態	演習科目
教室	[教]42講義室		
対象学生 (クラス等)	技術科1年生		
担当教員Eメールアドレス	t-fujiki@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	美術・技術棟2F 215室		
担当教員TEL	095-819-2363		
担当教員オフィスアワー	昼休み		
授業のねらい	技術科における4年次までの学びの概要を理解するとともに、大学生活での糧となる内容について、それぞれの教員の専門性の観点から、授業を行う。		
授業方法 (学習指導法)	プレゼンや討論等を含む、演習的な形式		
授業到達目標	技術科における4年間の学びの概要が説明できる。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 技術科教育及び情報の観点から</li> <li>3. 技術科教育及び情報の観点から</li> <li>4. 環境・エネルギーの観点から</li> <li>5. 環境・エネルギーの観点から</li> <li>6. 環境・エネルギーの観点から</li> <li>7. 電気電子の観点から</li> <li>8. 電気電子の観点から</li> <li>9. 電気電子の観点から</li> <li>10. 木材加工の観点から</li> <li>11. 木材加工の観点から</li> <li>12. 木材加工の観点から</li> <li>13. 栽培の観点から</li> <li>14. 栽培の観点から</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
キーワード			
教科書・教材・参考書			
成績評価の方法・基準等	各教員から出される授業中の課題等により、総合的に評価する。		
受講要件 (履修条件)			

本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考（URL）	
備考（準備学習等）	



-----  
Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2013年度シラバス**」、開講所属「**教育学部全体-教育学部 専門ゼミナール**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20131095533817	科目番号	10955338
授業科目名	●専門ゼミナール[英語]		
編集担当教員	松元 浩一		
授業担当教員名(科目責任者)	稲毛 逸郎		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	稲毛 逸郎		
科目分類	学部モジュール科目、教職関連科目		
対象年次	1年	講義形態	演習科目
教室	[教]演習室6-(9)		
対象学生 (クラス等)	学校教育教員養成課程 英語専攻 1年生		
担当教員Eメールアドレス	inage@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	6 2 1 研究室		
担当教員TEL	095-819-2093		
担当教員オフィスアワー	水曜日 16:00～18:00		
授業のねらい	英語の諸分野について基礎的な知識を習得し、それらについての自分の考えを持ち、適切に表現できるようになる。		
授業方法 (学習指導法)	各担当教員が授業で指示する。		
授業到達目標	イギリス文学、アメリカ文学、英語科教育、英語学、異文化理解の各分野に関して、基礎的な知識を体系的に理解し、これらの分野の特徴を説明することができる。		
授業内容	<p>英語についての専門的領域は、主として、英文学、米文学、英語学、英語科教育から成り、各教員が、それぞれの専門分野についてリレー方式で授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. アメリカ文学について (1)</li> <li>2. アメリカ文学について (2)</li> <li>3. アメリカ文学について (3)</li> <li>4. イギリス文学について (1)</li> <li>5. イギリス文学について (2)</li> <li>6. イギリス文学について (3)</li> <li>7. 英語科教育について (1)</li> <li>8. 英語科教育について (2)</li> <li>9. 英語科教育について (3)</li> <li>10. 英語学について (1)</li> <li>11. 英語学について (2)</li> <li>12. 英語学について (3)</li> <li>13. 英語教育・異文化理解について (1)</li> <li>14. 英語教育・異文化理解について (2)</li> <li>15. 英語教育・異文化理解について (3)</li> <li>16. まとめ・レポート提出</li> </ol>		
キーワード	イギリス文学 アメリカ文学 英語学 英語科教育 異文化理解		

教科書・教材・参考書	各教員より、授業中に指示がある。
成績評価の方法・基準等	授業のねらい及び到達目標の達成度を下記の基準で判定する。  合格水準は60%である。  授業への積極的貢献 20% レポートの評価 80%
受講要件（履修条件）	英語科1年生
本科目の位置づけ	この授業を通して、英語教員としての専門知識の基盤をなす諸要素とは何かを正しく認識できる観点を養うことが望まれる。
学習・教育目標	上記「授業のねらい」「授業到達目標」に同じ。
備考（URL）	
備考（準備学習等）	各教員ごとに配布される資料や文献を授業の前に予め熟読して授業に臨むこと。



タイトル「**2013年度シラバス**」、開講所属「**教育学部全体-教育学部 専門ゼミナール**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20131095533818	科目番号	10955338
授業科目名	●専門ゼミナール[特別支援]		
編集担当教員	平田 勝政		
授業担当教員名(科目責任者)	平田 勝政		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	平田 勝政, 綿巻 徹, 鈴木 保巳, 吉田 ゆり		
科目分類	学部モジュール科目、教職関連科目		
対象年次	1年	講義形態	演習科目
教室	[教]24講義室		
対象学生(クラス等)	特別支援教育コース1年		
担当教員Eメールアドレス	hirata@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部2F(218)		
担当教員TEL	095-819-2389(内線2389)		
担当教員オフィスアワー	ゼミ終了後		
授業のねらい	専門ゼミナールは、1年前期の教養セミナーにおける高校生活での学習スタイル(与えられた勉強・受験のための勉強)から大学生にふさわしい学習スタイル(問題発見・解決型の主体的学び)への転換をふまえて、特別支援教育コースに入学してきた学生として専門分野に関する主体的能動的学習(見学等の体験学習を含む)を支援し、その成果を発表・共有することをねらいとする。		
授業方法(学習指導法)	教員の講話、学習の手引き、各自の課題学習の支援、施設見学、学習成果の発表会等の多様な形式でゼミをおこなう。		
授業到達目標	特別支援教育(障害児教育)に関する各自の興味・関心に基づく主体的な学びとその成果をまとめ、発表できること。		
授業内容	回	内容	
	1	自己紹介、日程確認、ゼミ長等の各係の選出・決定	
	2	図書館案内、専門図書・論文等の情報収集の方法の学習	
	3	大学で専門分野をいかに学ぶか(教員の講話①)	
	4	大学で専門分野をいかに学ぶか(教員の講話②)	
	5	大学で専門分野をいかに学ぶか(教員の講話③)	
	6	個人の学習課題の確定とグループ化(3グループ)、冬休みの課題図書(共通)の選定	
	7	グループ別学習活動①	
	8	グループ別学習活動②	
	9	グループ別学習活動③	
10	グループ別学習活動④、課題図書の配布		

	11	冬休みの共通課題図書感想レポート発表会
	12	施設見学（センター試験前日の休講日に実施）
	13	学習成果発表会①
	14	学習成果発表会②
	15	学習成果発表会③
	16	試験（レポート提出）
キーワード	主体的学び	
教科書・教材・参考書	特別支援教育大事典（旬報社）	
成績評価の方法・基準等	発表内容と提出レポートを総合して評価する。	
受講要件（履修条件）	特になし	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		



タイトル「**2013年度シラバス**」、開講所属「**教育学部全体-教育学部 教科又は教職、教職関連科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	水3														
開講期間																	
必修選択	必, 選択	単位数	2.0														
時間割コード	20131095530701	科目番号	10955307														
授業科目名	●国際理解教育論																
編集担当教員	楠山 研																
授業担当教員名(科目責任者)	楠山 研																
授業担当教員名(オムニバス科目等)	楠山 研,井手 弘人																
科目分類	学部モジュール科目、教科又は教職、教科又は教職																
対象年次	2年	講義形態	講義科目														
教室	[教]11講義室																
対象学生 (クラス等)																	
担当教員Eメールアドレス	kusuyama@nagasaki-u.ac.jp																
担当教員研究室																	
担当教員TEL																	
担当教員オフィスアワー																	
授業のねらい	諸外国の教育や学校の様子を知り、日本と異なっている部分がなぜあるのかについて、社会背景を含めて考える。またいくつかの国や地域については詳細に学習し、制度にとどまらず実際的な部分についても考え、理解を深める。同時にこうした学習を通じて、日本の教育の特徴を考えるとともに、日本の中にも言語や文化をめぐる様々な問題があることを知り、解決策を探る。																
授業方法 (学習指導法)	講義形式を中心に、適宜活動や討論を含めて授業を進めていく。授業中に指示する小レポート・アンケート等も、授業の一環として重視する。具体的には各担当教員が説明をおこなう。																
授業到達目標	諸外国の教育や学校の様子や、そうした状況が生み出される背景を理解できる。日本においても言語や文化をめぐる問題があることを理解できる。これらを踏まえて、日本の教育や学校の特徴を把握し、日本の教育について考えることができる。																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>諸外国の教育が共通して抱えている課題</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>同じ目的、異なる方法 (教育制度からみえてくるもの)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>同じ目的、異なる方法 (カリキュラムからみえてくるもの)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>同じ方法、異なる目的 (各国の教育実践をめぐって1)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>同じ方法、異なる目的 (各国の教育実践をめぐって2)</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	オリエンテーション	2	諸外国の教育が共通して抱えている課題	3	同じ目的、異なる方法 (教育制度からみえてくるもの)	4	同じ目的、異なる方法 (カリキュラムからみえてくるもの)	5	同じ方法、異なる目的 (各国の教育実践をめぐって1)	6	同じ方法、異なる目的 (各国の教育実践をめぐって2)
回	内容																
1	オリエンテーション																
2	諸外国の教育が共通して抱えている課題																
3	同じ目的、異なる方法 (教育制度からみえてくるもの)																
4	同じ目的、異なる方法 (カリキュラムからみえてくるもの)																
5	同じ方法、異なる目的 (各国の教育実践をめぐって1)																
6	同じ方法、異なる目的 (各国の教育実践をめぐって2)																

授業内容	7	海外子女教育の現状と課題
	8	在外教育施設派遣制度と現地での教育
	9	国際理解教育の実践前提（1）－東アジアにおける「知」の国家戦略とナショナル・カリキュラムデザイン
	10	国際理解教育の実践前提（2）－「内なる『知』」と「外への『知』」：アイデンティティとコンピテンシー
	11	国際理解教育の実践（1）－歴史教育対話：初等教育における「エティック」と「イミミック」の取り扱い
	12	国際理解教育の実践（2）－初等教育における「トランスナショナル・リテラシー」の授業デザイン
	13	国際理解教育の実践（3）演習：総合的な学習の時間「国際理解」を想定したロールプレイ（模擬授業）
	14	事例研究（外国の教育を知ること）
	15	学生として私たちができること、できないこと
	16	
キーワード	諸外国の教育、日本の中の国際化	
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。参考書は授業中に適宜紹介する。 授業はレジュメ、パワーポイント、DVDなどをもとに進めていく。	
成績評価の方法・基準等	授業中に指示する小レポート、コメント等 80% 期末レポート 20%	
受講要件（履修条件）	なし	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）	テレビ等で外国の教室が映った時、日本とどこが違うか見つけておきましょう	



タイトル「**2013年度シラバス**」、開講所属「**教育学部全体-教育学部 教科又は教職、教職関連科目**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	必, 選択	単位数	2.0
時間割コード	20131095524601	科目番号	10955246
授業科目名	●環境教育		
編集担当教員	星野 由雅		
授業担当教員名(科目責任者)	星野 由雅		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	星野 由雅		
科目分類	学部モジュール科目、教科又は教職、学部共通科目		
対象年次	2年, 3年	講義形態	講義科目
教室	[教]41講義室		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	hoshino@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部4階 4 1 5 研究室		
担当教員TEL	095-819-2332		
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	学校教育における環境教育の意義を踏まえた後、環境と社会がどのように関わっているかを環境基本法などで大まかに捉え、具体例として環境要因がどのように環境や人間に影響を与え、社会が、それをどのように扱って行けば良いのかを各種の規制法等を通して考える。また、ドイツの環境と社会との関わりを多角的に調べ、日本の環境教育のあるべき姿を探る。		
授業方法 (学習指導法)	受講者自らが課題を設定し、その課題を解決するために、教科書、配布資料、参考書等で学習するとともに、課題と課題解決のために学習した内容をレポートとし、発表する。また、学習した内容に応じてプレゼンテーションを学生自らが行う。授業中に学習内容の定着度を図る目的で小テストを数回課す。		
授業到達目標	学校教育における環境教育の意義を述べるようになる。環境と社会と関わりについて、法的な知識と理解度を高めると共に、現代社会の中で環境要因が具体的にどのように環境や人間に影響を与え、社会がそれをどのように扱って行けば良いのかを多角的に調べ、環境教育のあるべき姿を述べるようになる。		
	回	内容	
	1	オリエンテーションとイントロダクション。 学校教育と環境教育の違い	
	2	学校教育と環境教育の違い	
	3	環境教育の授業構成	
	4	ESD (持続発展教育)	
	5	ESD (持続発展教育)	
	6	受講者自らが興味を持つ、環境問題を挙げる課題 (事項と内容) を指示する。【課題：個人レポート】	
		班に分かれて、各受講者ごとに挙げた環境問題を選定した理由を班員に説明する。次	

授業内容	7	に、挙げた環境問題の内容を理解するために必要な学習事項（法規や関連事項）を挙げる課題を指示する。受講者から質問があれば、学習事項の例とその内容について説明する。【課題：個人レポート】
	8	班に分かれて、各受講者ごとに学習事項（法規や関連事項）を発表し、班員全員が必須と考える学習事項を選定する。班ごとに必須となった学習事項を理由と共に発表する。クラス全体での必須学習事項を受講者間の議論により選定する。必須学習事項について各受講者が学習してくる。【課題：個人レポート】 教員による補足説明。
	9	班ごとに必須学習事項について学習してきた内容を班内で各受講者が発表を行う。班内でテーマを1つに選定し、その内容についてクラス全体にわかるように説明するための準備を行う。
	10	各班ごとに必須学習事項1つについて、発表（1） 教員による補足説明。
	11	前回の授業で取り上げた必須学習事項に関する小テスト 各班ごとに必須学習事項1つについて、発表（2） 教員による補足説明。
	12	前回の授業で取り上げた必須学習事項に関する小テスト 各班ごとに必須学習事項1つについて、発表（3）
	13	班に分かれて、各受講生が作成した説明レポートを班内で発表。その後、班の代表者がクラス全体に対して説明レポートを基に発表。
	14	班に分かれて、各受講生が作成した説明レポートを班内で発表。その後、班の代表者がクラス全体に対して説明レポートを基に発表。
	15	班に分かれて、各受講生が作成した説明レポートを班内で発表。その後、班の代表者がクラス全体に対して説明レポートを基に発表。
	16	定期試験
キーワード	環境基本法、環境基準、化学物質のリスク、ドイツの環境事情、環境教育	
教科書・教材・参考書	参考書1：谷村賢治・齋藤 寛編著「環境知を育む」税務経理協会 参考書2：及川 紀久雄・北野 大共著「人間・環境・安全ーくらしの安全科学」共立出版	
成績評価の方法・基準等	授業中の小テスト、課題レポート、発表、定期考査を行って評価する。評価割合は、定期考査50%、授業中の小テスト20%、課題レポート20%、発表10%とし、総合点で評価する。合格基準は、総合点で60%以上とする。	
受講要件（履修条件）	環境教育に興味関心の高い人を望む。	
本科目の位置づけ	教育者として必須の項目である。学校教育の中では、教科内だけでなく学校生活全般を通して教授することが求められる。	
学習・教育目標	環境教育に関して受講者が備えておくべき学習事項を自ら設定することで、主体的な学習姿勢を育成することと知識獲得を目標とする。	
備考（URL）		
備考（準備学習等）		

